

(五)

明治廿九年七月

山口縣民蛭子音三郎踪跡不明件

外務省

5-1 3 1 1

0152

明治九年七月二十四日接文

檄密第二二二二号

明治九年七月二十四日付

仁川港情報報告板書

外務省

士田讓亮加害者嫌疑者再調査の件

右嫌疑者として被害地客舎主人李仁甫事實  
考へる人吳法占、二人の捜索、為メ出張シタル者銀  
付巡査、於テ當港へ日行リホシテ到着後直ニ當  
府觀察使、引渡シタル件、豫テ相合タル所ナカ  
其後去る銀、警部神官清シテ合ハシメテ  
引渡シタル間仁川府に於テ取調シ行ハシメタル  
彼等ノ口供頗ル曖昧ニシテ要領ヲ盡サズトモ  
其加害者ハ江西都ヲ遊撃シタル義兵大將金  
昌洙外四人ニ事、李仁甫カ田ノ所有財産

外務省

總錄數儀ヲ預ルルハ全ク人皇陛下ノ強制命令  
ニ出カレリ、判明シタルヲ以テ今後者録ヲ具  
照會シ後日何事ノ關係ヲ取具スル迄ハ一先右  
方人ノ帰郷ヲ許ス事ニ結局スル  
日存人遭難嫌疑、山口縣平長姫子吉之郎  
人者昨年土日内地行商ノ為メ韓船一隻ヲ賃  
シテ昔海方方面へ出張シタル間乗方曰ク是  
何事ノ消息ナリ、疑ハレタル旨全人ノ宣及治三郎  
リ當銀、新、出タル事、船中漢人トシテ要領  
ヲ知ガシ甘先ツ自ラ其踪跡ヲ求メ端緒ヲ得ラ  
當銀ノ枚数ヲ要請ス、下リヨリ詳シニ至ルニ右治  
三郎ハ西田森作人者、韓人通譯一名ト共ニ  
韓船ヲ賃シテ存日自當海地方へ向タルニ其

右の如き事化電報ノ中ナリ



云フ地ニ於テ音三郎カ乗込ニ出番シタル釋船ヲ表  
 尺ニシテ三府直ニ役場ニ宛テ當時ノ情況ヲ告ガセ  
 ン右ノ時ト申テ自之ヲ浮地ノ突角銀皮上半  
 斜若ノ海岸ニ於テ音人ノ俣澤浦ニ於テ音人ノ  
 音及見ス一由より郡守ヲ九月ノ既長ニ保及リテ  
 船中ニ存在ス釋米食糧等ニ由張巡檢ノ食  
 糧ニ供シ且他船中ノ難人ハ保及人ニ於テ預  
 リ片々音ツ音ク音船底ニ存スル音ノ痕跡并ニ音  
 三郎カ銀貨ハ音金田ツ提帶シ居ル音等ノ事  
 情ヲ查スニ釋人ハ保及人ノヲ得釋シ免モノト  
 認メラシム居出リ去ルニシテ且地郡守カ新  
 事能ク事志ニナカラ音片通膝シ日本官吏  
 トハハ事願ニ怪訝ノ至リ且音銀及音公使

外務省

銀ヲ陸テ外郎ノ照会シ音ヨリ且音田々ノ浮  
 沈音早速ニ通音音ノ音及音音ノ音及音音

以恩

在任

銀ノ銀ヲ代漢銀及補給系音一



九年七月廿三日

普通書

公第一三二號

七七九

山口縣平民經子音三郎立者客年十一月五日當港ヲ出  
 發米穀買入、為朝鮮船、乘込、黃海道長淵郡大  
 炭芳、赴キ其後行方不明ナル赴、以テ本年三月中旬  
 規厚東市日搜索願出、其京城公使ヲ經テ當國  
 政府へ搜索方照會致置キタルモ未ダ何等回報無之然ルニ  
 今般同人實兄治三郎立者搜索ノ為メ本邦ヨリ渡航黃  
 海道地方、詮索スルニ同人ノ乗組、居タリシ船、見當リル  
 越、小當館申、出、付再、京城原公使へ別紙、通リ、稟  
 申、置、其間、為、念、各、寫、書、爰、差、進、其、故、具、

明治二十九年七月十六日

在仁川帝國領事館書記代理 萩原守



在朝鮮國仁川港

日本領事館

外務次官小村嘉平郎殿

5-1311

0155

鳳  
京第二四號

當洪在馬山日縣平民經于音三郎踪跡詮索、并付六  
本手三月十六日付言第四號下、以テ其跡、御座會方々  
講置置度、今般人又實見、音三郎ヲ捜索、為渡所  
致黃海道地方ヲ普ク捜索ノ上、同道九月ト稱スル地、於テ  
同乘組ノ船ヲ見出、其始末別紙ノ通、上申致矣  
右申書、極ハ該地、方官、於テ公認セシモノト存セシ  
外部ノ件、未ク何等公報無之、我今回ハ同件、付  
詮索、端緒ヲ得矣、付充分取調、存意、其間、公報  
之、其生、今應外部、以、既會相成、標、度、別紙、願、皇、志  
通、相、添、此、信、中、進、美、敬、白、也

明治廿九年七月廿六日

在朝鮮國仁川港

日本領事館

在行前國領事館事務理松原守一

特命全權公使原敬殿

御取調願

山口縣平民蛭子言三郎義明昨年十月五日内地旅行傳生  
死不詳付同人実兄團貞蛭子治三郎及團貞又西田吉  
作兩人ヲシテ捜索セシメテ復別紙復申事通リ僅カニ搜  
索ノ端終リテ発見シクルニキレテ未ク正確ノ要領ヲ得ス  
然レモ模様ニ由テ判明ノスルハ言三郎ハ己ニ謀殺セラ  
ルニ相違ナキカ如クナルニシテ御館ニ於テ相当ノ手續ニ由リ  
御取調被成下度別紙復申事通リ相違此取調願也  
明治二十九年七月一日

雞林漢業團副長 福井三郎

領事館事務代理 松原守一殿

在朝鮮國仁川港

日本領事館



復申書

自命等兩名代指揮、從子音三郎生死偵察、  
為本月二日密田港出立其心當地方黃海道九月(味)ト  
稱之地、至海陸諸所搜索、致其處同地陸上、於隊  
子見覺有之音三郎、所有船、事案、有之ヲ突見致  
矣、付精細、其船体ヲ取調、矣、外部、更、異狀、無之モ  
内部、船底、斧ノ加ハルカキ、此痕、有之然、シテ船内  
ニ鉄製鋸二枚ト、雜具一二、ヲ除ク、外人影ハ勿論有價、  
物中、六、品モ現存ス、モノ、ノ、廢、解、ナリ、テ、久、ク、陸、上、ニ、委  
棄、セ、シ、ル、モノ、也、見、受、ク、ラ、シ、テ、其、怪、訝、耐、ヘ、ス、進、テ、人  
家、ニ、至、リ、一、韓、人、就、中、事、實、相、尋、テ、其、處、有、韓、曆、年、耳

在朝鮮國行

十月四日(我十月十日)當日、同地ヲ距、一里餘ノ小嶼、茂島、  
居民金應默ナル者、九月、突、用、銀、皮、止、半、斜、合、ト、稱、ス、海  
岸、ヲ、舟、行、際、該、船、無、シ、テ、漂、着、シ、居、ル、ヲ、突、見、シ、本、洞、  
告、知、来、リ、ル、由、リ、本、洞、ヨリ、八、直、子、ニ、之、ヲ、郡、守、ニ、届、出、テ、周  
守、ハ、更、ラ、ニ、本、洞、頭、民、韓、君、實、ハ、保、官、手、朴、光、默、執、綱、李  
永、奉、等、ト、自、分、事、案、周、知、ス、保、官、ヲ、令、シ、ル、モ、ニ、シ、テ  
當時、糧、米、塩、素、如、キ、モ、船、中、ニ、現、存、シ、居、ル、ヲ、此、ハ、皆、出  
張、巡、檢、食、糧、ニ、供、シ、其、他、船、具、ハ、保、官、手、朴、光、默、預、リ、居、ル  
旨、相、答、矣、付、キ、更、ニ、其、預、リ、居、ル、船、具、ヲ、見、シ、テ、亦、多、ク、ニ  
村、内、各、戸、一、品、ハ、至、ニ、品、位、保、存、致、居、矣、由、ニ、テ、每、人、持  
出、テ、其、物、品、ヲ、見、ル、ニ、是、亦、亦、用、雜、具、ト、過、キ、テ、其、他、狀、況、ヲ



尋問致すハハ衆皆口ヲ封シテ何事ヲモ明シセス因之ニ日  
三郎ノ動靜ハ確知ルヲ得ス矣凡音三郎ハ當時八百圓  
餘ノ銀貨ヲ所持シ居ルニ由リ察スル處ハ韓人相謀テ同ノヲ  
謀殺シ船ヲ捨テ其跡ヲ晦マシクル者ト思料致ス矣  
右及復申矣ヤ

明治二十九年七月六日

雞林漢業園員

經子治三郎

西田喜作

雞林漢業園

副團長 福井三郎

在朝鮮國行

日本領事館



次官

公事第一四六号 會計課

明治廿九年七月十九日

蛭子音之印加害者搜索ノ  
為ノ調査派遣ノ件

山口縣平民蛭子音之郎ナル者黃  
海道九月附近ニ於テ殺害セラレタ  
ル推定アルニ付原公使ヲ經テ外部  
ニ照會方葉海技師ハ曩ニ公事一  
三ニ号ヲ以テ上申被置及當國外  
部ヨリハ本件ニ関シ我公使ニ來ダ  
何等ノ知照ナク今回原公使ヨリ此  
旨ニ接シ始メテ當該地方官ハ所  
謂方ヲ嚴令シタルモ斯ル重大ノ事  
件ヲ朝鮮官吏ノ措置ニ任スル

毛到底満足ス可キ結果ヲ得ル事ハ存  
在来ヲ以テ決然有搜索ニ関シ當該  
地方官ヲ援助スルノ為我ヲ以テ巡  
査一与有テ差遣被派原公使ニ  
リ訓令有之ク付昨十八日當該附  
巡査室至行一印全池田辰之助、二人  
ニ任リ府ヲ派遣シタル巡査二人ヲ  
供ニ該地ニ向テ出發セシメ事柄ヲ  
取調、犯人ノ搜索ヲ行フ被派付  
は及上申被置

明治廿九年七月十九日

在任川原中級事務代理萩原吉一

外務次官山村嘉吉印



第九年四月十一日 青島

公券一七〇號

平壤へ出張し、此處歸仁ノ件

第三〇二〇

當館附出査芝沼一則、今、天野健蔵ノ兩名ヲ行商者保護及、姪子音三郎加害者捜索ノ爲、ノ本月十三日平壤へ出張シ命シタル件ハ、今十七日付公券二〇四号ヲ以テ申達置キ、慶右一行ハ、本月二十七日、全地發覺ニ、十八日歸仁致ス

右出査等、於テ調査シタル全地ノ民情商況、我々行商者ハ、状体其他ハ、別紙復命書差送ス、同所査閲相成、為、將又姪子音三郎加害者ニ對シテハ、該出査等ニ於テ種々捜索シ盡力致シ、得、其終、要領ヲ得、其私ク探査シ得タル慶ハ、姪子、止當、此レハ、仁川ノ外、梁書房ハ、張書房(張興植)ノ

在朝鮮國仁川港

日本領事館

誤ニシテ右張書房ノ言シ、依テ察スレ、從來該加害者ト思料サレ居リタルハ、仁川(黃治景)ナルモノ、目下其所在不明ナルモノ、仁川ニ威鏡道産、モ、ニ、年、齡、六、七、八、才、体、格、能、リ、強、健、ナ、リ、且、ツ、日本ノ、僱、ニ、應、ジ、テ、仁、川、ニ、赴、キ、タ、ル、コ、ト、ナ、ク、經、テ、本、加、害、者、ト、ハ、見、認、ラ、レ、ス、其、加、害、者、ト、想、像、サ、ル、ハ、昨、年、四、月、頃、日、本、軍、隊、ノ、軍、夫、ト、シ、テ、仁、川、ヲ、來、リ、テ、右、張、書、房、方、ニ、止、當、シ、居、リ、昨、年、六、月、頃、日、本、人、ニ、從、ヒ、仁、川、ニ、赴、キ、タ、リ、ト、云、フ、仁、川、人、張、書、房、ナ、ル、モ、ニ、シ、テ、仁、川、ノ、自、ラ、黃、治、景、ト、詐、稱、セ、シ、タ、ル、コ、ト、事、而、シ、テ、該、張、書、房、ハ、年、齡、四、十、前、後、ニ、シ、テ、体、格、強、壯、其、人、相、容、曾、テ、右、出、査、等、ノ、聞、キ、タル、慶、上、所、合、ス、ル、趣、ニ、テ、其、所、在、種、々、探、究、ス、ル、終、ニ、判、然、不、致、



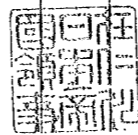
趣有之在猶本件。遂シテハ當館ニ於テ搜  
索ニ從事シタル當効ヨリノ事實取纏ノ別信ヲ  
以テ可及所報告セヨ共右不取敢所參考  
也ニ申進及教員

明治二十九年九月一日

在仁川

領事館事務代理

領事官神谷守一



外務次官小村壽太郎殿

在朝鮮國仁川港

日本領事館



外方一七〇号 別紙

平壤附近人心模様

平壤地方在住朝鮮人の一般寧ろ厚博博の以て評し得るは、  
 其日本人對し特別好感情を呈せし事蓋し日本軍隊の永く此地駐  
 在し嚴密に用ひし愛撫之恩惠を施し以て彼等が追慕の念を惹  
 起し亦其等が地帯に在る官吏の常々存留日本商人等と相往來し  
 頗る日本ノ快情を通曉せし事多し以て本邦人對し特別  
 之の厚遇を乞ふ傾向あり在る南人の利益を得ん事サテ  
 既ニ度程せし事アル有様、新任官吏の方針如何に依  
 りテ亦本邦商人の待遇如何に變転せんかの豫知之可  
 なり

在朝鮮國仁川港

日本領事館

明治九年九月二十日續編

二商人 商人三種あり日本人と米穀其他の物品を直に採取する  
 者及と振作を張る自商人の向て店賣する者、之より前者  
 專ら日本人の以て花客トナシ常々其門戸を出入し其專心氣  
 息を傾て他地を賣す者、皆其後者、過般日本人の謀中其大  
 利益を独占せし居り、其拘ラス用と日本商人の心懐を見ん  
 至り其利益を分割せんとす、而して其等が且て其運轉を輕便  
 ならせんとす、其運轉を此にシテアル以て商業上、精思心を養  
 へ、其感情を保持せんとす、有様ナル事、元之に極めて其教を學  
 ぶ、故に其頭を懸して是に在り、其信ス

三農民 彼等日本人の厚遇を信認するに強し、豫想外にシテ、全羅  
 道地方に比し、其常々平壤に差し止ミテ、其一夕散策を許し、  
 東西道に差し、其能ハルに在り、之を田圃先父の向て、彼れが事業  
 事業を懇切に道アルに、其誘つて止らざる様、其負担を堪へ

送第〇〇

官

〇〇

〇〇



ス人仕其行季運... 唯多意... 以上記載... 仕等... 見...

手懷鎮衛隊

手懷鎮衛隊... 在朝鮮國仁川港... 日本領事館... 何と頗る嚴格... 内用壁... 費...

鎮衛隊の準備

八月廿七日午後... 見... 有様...

鎮衛隊の準備



其捕虜中三乳天同江村岸於之銃殺し刑處せり

平壤附近東學堂ノ擄掠

平壤鎮傳隊日本士官前鋒ヲ受ルル軍而己ノ隊伍ニ整備シ執  
作ニ亦敏捷ニシテ朝鮮兵中一種ノ特色ヲ有スル故其成績從良  
好ニシテ常ニ東學堂ノ中庭間スル如クニ道路ノ以テ東徒ノ擄掠スルヤ亦  
ニ二三道里以外ノ土地於テ目下東徒擄掠ノ例アリ初頃報載  
陽徳猛山ノミナリ

平壤諸官衙官吏ノ更迭

官衙送來ノ諸官吏中觀察及書官并ニ監獄官ノ如キ殊ニ本邦人  
ニ同情ヲ表シ其取扱事ニ懇切ナリ且屬官耳シハ呼ナレバ使者ノ送  
ルニ今更替アリ命セシ後未だ査テテ名リ定員トシテ觀テモシタ  
寫ニ半ノ其救ノ減縮スル旨既ニ其助ヨリ命合アリタリ以テ更  
ニ替(更替)ニ命セリ命合アリテ既行スル者ナリト

在朝鮮國仁川港

日本領事館

在朝日本ノ多數

当地在朝日本ノ男女合シテ八十名ニ及ル内九名目下内地ノ各処ニ向  
テ行商セリ

今在朝日本ノ其行商ノ地ニ列記セリ

平壤在朝日本人 男 四  
女 七 合 十一 戶數 三

地名 江西 順安 安州 黃州 華城 合計

行商者 三 一 一 一 一 二 九

在朝日本人ノ營業種類

平壤在朝日本人ノ各業ニ對シテ其營業者ノ數列セリ如ク

貿易商 張店 七 醫師 一

菓子 鋪 三 水販賣 一

印刷 師 一 陶器商 二

南況

前日米谷南銷其地方韓人多是少キカ為ノ商業不振ノ相模ナリ  
 リシ目下ノ人も漸ク増加シテ南島ノ揚々方亦隨テ好況趨ク  
 有様ヨリ毎々倒産ノ新層九月に至リ地方韓人亦南會  
 準備ノ為ノ準備スルノ多ク為ニ南島ノ揚々方後ヲ注視ニ趣キ  
 ナリト買収物中米ノ本年度作柄他穀物止テ非常豊作ナ  
 ル見込付ナリカ為ノ十月下旬頃より米價現レシク其價  
 格低廉ニ趨クヘキ言ハレハ吟ニ米豆取引野ニテ八月申現米受  
 渡期切迫ノ為ノ賣方南人九仁川立者并支店(五石)河野カ  
 即庄野字永組(久間)各々手ノ準備ニ仲(元方仕)ノ準備セ  
 ヲ一時競買ノ姿ヲ現シ相場次第騰貴セリカ為ニ市中食料  
 民困疲弊カラス防穀令發布セラレハ仁川ノ風評アリカカ既  
 在朝鮮國仁川港 日本領事館

白米一石ニ付キ	白米一石ニ付キ
イニ四内外	イニ上七四三ナリ イニ下七四三ナリ イニ中七四三ナリ
口五四八ナリ イニ上七四三ナリ イニ下七四三ナリ	口 六四七ナリ
大豆ハ斗表	大豆ハ斗表
大豆ハ斗上	大豆ハ斗上





獨り当地於て尤も注意すべきは韓銀相場一足せんりて此時の相場  
 拾八割五分即ち銀貨一圓に付き銀貨五圓三十九文習う故に  
 在任の日本商人は往時銀貨一圓に付き銀貨五圓三十九文習う故に  
 目下釜山地方も喜以連日韓幣の上騰ノ意味あり今後如何なる  
 動否も豫知するべし

七月中南高取引高

輸入

品名	品数	金額	品名	金額
水綿	一七〇〇及	一九三〇、〇〇〇	白米	六五七八八〇〇
晒木綿	一〇〇及	六、〇〇〇	玄米	三五九七二〇〇
絹木綿	二〇〇匹	一三〇、〇〇〇	大豆	九七二五二八〇
金巾	一五〇	六八八、〇〇〇	小豆	

在朝鮮國仁川港

日本領事館

紙金巾	五〇	一五〇、〇〇〇	粟	四五〇、〇〇〇
支那布	一三〇匹	四二〇、〇〇〇	大豆	一三〇、〇〇〇
真冷紗	二〇〇及	二二〇、〇〇〇	中骨	三〇〇、〇〇〇
星毛織子	二〇及	一三〇、〇〇〇	合計	二、〇六三、〇〇〇
蚊帳地	八〇匹	五六、〇〇〇		
蚊帳張	一三張	一八、〇〇〇		
負日帯	五五〇	一七七、〇〇〇		
巻簾		五八八、〇〇〇		
今七ノ巾		三三〇、〇〇〇		
雑菓子		五三〇、〇〇〇		
砂糖		一〇、〇〇〇		
日本酒		一五七、二〇〇		
特下下場		三、〇〇〇		

輸出

漆油	石油	マツチ	洋釘	炭鋼	折錫	煙管	鉄及鉄器	鉄	刀	鑪	鑪	鐵器雜種	時計	金附屬品	銀鏡	鏡類	陶器	洋傘	雨傘	ナイフ及剃刀	板硝子	ランプ	紙及手帳	石炭	白糸	扇		
一、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、七、〇〇〇	一、三、五、〇〇〇	三、五、〇、〇〇〇	二、五、〇、〇〇〇	二、五、五、〇〇	七、一、四、〇〇	二、五、〇、〇〇	三、一、二、五〇	一、〇、〇、五〇	二、五、〇、〇〇	一、〇、七、七〇	津浦線	津浦線	二、〇、九、九〇	四、五、九、〇〇	二、七、九、〇〇	三、九、五、〇〇	四、二、一、〇〇	二、九、四、〇〇	五、〇、〇〇	三、三、五、五〇	一、〇、四、五〇	四、二、七、〇〇	四、〇、〇、〇〇	四、〇、〇、〇〇	四、〇、〇、〇〇	四、〇、〇、〇〇

在朝鮮國仁川港

日本領事館



在朝鮮國仁川港		日本領事館	
算盤	4,000		
タオル	2,729.0		
衣類	110,311.0		
洋燭燭	10,512.00		
板木類	22,510.00		
竹	110,000		
縄及以	31,800.00		
鱈	700,000.00		
味噌	4,000		
貴重	2,850.00		
銅金類	22,780.00		
硫黄	21,500.00		
高水母類	10,000		
小麦	218,000		
小荷物類	22,850.00		
雜貨	27,030.00		
合計	1,374,000.00		
1900年10月10日現在の仁川港に在る日本領事館の積込			
豆類		合計	2,145,900.00
大豆		大豆	110,000.00
大豆		大豆	2,035,900.00
米		米	1,101,330.00
豆類		豆類	1,044,570.00

従来者たるがれり賣出は常行の故常の好美配ソレ其の中は再掲  
 水産品は高價の爲に居り、その多量賣出は中人に難敷、此等品は

貴重品

大豆



送心韓若ヲ敷田としモアリシハ後果ニ違韓若信用ヲ失し真正  
良務ヲ室丹々令身ヲ汚し影射者ノ及ぶ事多ク加ニラヌ彼等事  
其者中從之臣師數似ノ如クシテ監者金錢ヲ食リテ却臣師ノ  
俸而リテスノミナシテ厄債亦多ク可カラズトハ七聖ノ更譯者亦韓人中  
傳ノ播せらるルヤ其高他ニ比シテ甚カク見ル且シテ今テミテ其  
後更ノ更弊ヲ洗除シ租米ノ監送リ正シテ其價ノ回復ヲ注意せん  
其結果遂ニ却行南者良財原ヲ失フニ至ラシ

在朝鮮國仁川港  
日本領事館

地方産出ノ雜穀ニ米粟大豆高麗薯ナルカ何モ統制ノ豐作ニ  
斷ル良材極ニ近來稀ニ見ル如ク現ニ行々大同江河口等處ニ  
夏ノ凶凶同團ニ多ク米粟高麗豆等テ充テ各種蓄積豐實ノ色  
ヲ表ス然レト一驚ヲ呼ビシ程ナリ

平壤外玉人

在朝鮮國仁川港

日本領事館

平壤外玉人ノ日人入リ除キ未清ニ日人合五人ナリ米三石即チ  
獲布教ノ目的以テ在浦セシメシニ日ノ教會堂ヲ設置ス一平壤  
内ノ中央ニ南門外ノ丘上ニ在リテ其堂ヲ信者ヲ皆ム彼等ハ在教  
ノ手段トシテ衆人ノ注目ヲ惹カシメテ時ニ信者ノ子弟ヲ出サ各寺ニ金  
中製朝鮮國旗ヲ持テ列ビ市内ヲ巡行セシメ信者ニ教ヲ授  
貸行南ニテ幣仁川平壤間ヲ往復シ其業ヲ堂ニ居ルニシテ

平壤外玉人

平壤外玉人ノ長ニ原ニ曰クナリテ其職ニ任シ榮田長也則長  
トシテ之ヲ神助トシガ事ナリ同胞ヲ高シ遠ク其邦ニ寄寓セシメ團長等皆  
其法全一致ノ如ク和寛スル必事トシテ團規ニ從順シテ能ク長ヲ奉ク則  
長ノ指導ニ從フラ見ル彼等長亦女流ノ其職任ニ敢テ汚色ナレ  
若シ存シテ當初ノ意ヲ守ルニ無クシテ在朝鮮人ノ幸福亦甚ク  
ハキナリ



茲將記すに於て年月日等南へか再度ノ境ヲ許可すべしと當初禁められた  
 にも敢て往々韓人ヲ誘過すに相繼ぎ奉り動アラスル者アルも長  
 等連リは等々行ひ注意し其尤甚き横山又村中父子等  
 事規ニ照らし交す、刻戒ヲ加へるに、亦事段ノ自衛準備進リ難  
 此ノ様アリト

右見聞之概略及報告也

仁川島中欽差館

明治九年八月二十日

中野一則  
天野健藏

在朝鮮國仁川港

日本領事館



廿九年十月六日 臺灣通商局

公芳八四號

此縣人姪子音三郎踪跡搜索案件

姪子音三郎踪跡搜索案件 嗣之後未履之公信以 及所報置義者之當能之極之努力致其 得其不自尋領之難得真處置在案今案件因 為所參考當初可釐未取確在可及所報云

本年三月三日臺灣 屏南有東洋市ルヨリ此縣 姓毛野麻里内村人等別府ルヨリ三月三日此縣 音三郎ル者未殺買入為銀貸八百圓之銀票

昨午八月十五日法書海濱長洲大庄地方 人三名共三手在道刺之者不精轉ルヨリ乘以出帆 本日三月日頃之通事全地海濱在七ル極一面之浪云

頃午ルヨリ三月三日此縣 音三郎ル者未殺買入為銀貸八百圓之銀票 在州縣關川港 日本領事館

凡此以或轉入為之殺害云々之無之云々在搜査方 今人取持其目録之方人相書目録之自館領出之林 本日三月六日而當此觀察役之聯合一面ル村公候

此ル其助對該地方長官等之嚴節之云々 詮索之遂之方一度旨也自方之自前之四書

本年七月三日 右音三郎買入姪子音三郎在玉手 由上自渡直方之自館領出之在案今件其詳悉 頗ル消息云々之在領之相カルヨリ先之自其詳悉

搜之端緒ヲ相カル後當館一秘護之云々其詳悉 既論ルル在法三郎之西回在作ルヨリ其詳悉今通弁 一名ト共該船ヲ賃メ今日其心當内地在島海 道九月間云々之搜査自活日未ル今地陸上之云々

之五日即才乘以出帆之云々其詳悉之云々取調



凡外郎別國異狀ヲ認ムルモ内郎船底ニ於テ斧痕  
 ルヲ認テ和之船中ニ鉄刺木組ニ掘籍員二三外急ニ後突  
 シ久ク座船下ニ陸上ニ急乗セシムルモ如キヨ以テ  
 近傍人家就テ事者員ヲ守候タルニ右昨午十日廿日  
 合地ヲ昨午一里餘不曉我島居民金應黙ナルモ元月  
 派海岸岸是石頂邊着テ居ル元ヲ我員ト直ニ候  
 ニ在出元ヨリ聲ヲ元日派民船員其初保管者  
 上邊船中ニ預存シ居ル元未極ニ岸根川檢入會員  
 候レテ事ヲ事ヲ其船員事ヲ具ルニ事ニ船用籍員  
 者直他事ニ切知タル者ヲ卷テ右船底ニ斧痕其  
 當時八百余口銀貨ヲ携帶シ居ルルヲ事ヲ事  
 考レテ或ニ乘組船人相談ニ今人ヲ殺シ其所持書ヲ  
 奪ヒタルヲ事ヲ事ト思ルル其機案方前記所ニ即歸  
 仁上由上領事今事ニ合地船中才財顧不候片  
 通譯ヲ毛日官官ヲ喚ハカレ頼ル控認候ハルモ朝  
 鮮政府ニ何事カ公報相達シ居ルル今下案セシルニ其  
 會方ニ係テは事ヲ事情ヲ今日八日有公傳今日十四日  
 及テ者小村次官ニ申請セリ  
 原公候之ニ對シ七日有自以テ右事ヲ以テ地方官ニ  
 嚴令シ先ニ取調ニ為サシ度旨外郎照會外郎  
 於テ有テ事ヲ事訓令ヲ發シル旨日答テ有旨申候  
 中猶テ朝鮮官受命指シ任ルル到底滿之徒果  
 相止ラズ果案ヲ事ヲ事此際右機案候ニ事ヲ事  
 方官ヲ協助シ居義事我出首一兩名ヲ該地大ニ事連  
 スル旨申候カレルル今八日有館附員有旨有候即  
 金池田辰之助兩名ヲ該地檢入會根案人親戚ニ事ヲ

在朝鮮國仁川港

日本領事館



全道之良民海員之密多如生者其數不計其為東海  
 道康鎮鎮九月滿三出張多命今  
 全道之良民海員之密多如生者其數不計其為東海  
 道康鎮鎮九月滿三出張多命今  
 全道之良民海員之密多如生者其數不計其為東海  
 道康鎮鎮九月滿三出張多命今  
 全道之良民海員之密多如生者其數不計其為東海  
 道康鎮鎮九月滿三出張多命今

在朝鮮國仁川港

日本領事館





此等ノ事ハ新舊住者中名難成ニ目録送仁川附  
 近住居七ノ毛過船逃走ノ事行跡ヲ悉ク有レテハニ  
 五百三郎存船額如手後係ルニシテ手操トシラ門外  
 海濱深書方ニ長ク在船中居テ凡田ニ在船船買  
 人ノ元直官申テ去ル四里ノトシト称スル地ニ於テ  
 名義以テ買入ルルニ由テ因テ以テ自申テ流三郎  
 子申五九如ナリ凡九ノ江重島ニ在テ海濱地ニ據テ  
 併テテ手操深書方ノ取謀ニ以テ父事テテ八日言  
 當國領附直直事者有テ之カ合併地并事助ニ在名直  
 板三在附テテ重島島村力ノ文今日手操地方行居者  
 取納事方為流送ヲ命テ凡果自之區則天野信藏  
 面名在伴同之カ取謀テ友八手併テテ訓令下  
 以重島村力事官自取謀為在張ル凡直事行  
 全九日伴仁ノ其後命テ凡直事有テ之カ併テ  
 小教ル村落ノ自直事相并テテカ村力カ村力  
 之は因取納事嚴禁檢査凡直事之類セルモテ  
 去カ見テ解カカ村任人ノ事テ三三通稱ノ事  
 合ルル如ク今人ノ訛聞タル類候テテ形跡下テ以テ不  
 存今手操引致タル趣ノ有依テ談ニシテ自レカ者  
 付種々事聞也小難不今カ流名取人ノ事自來カ本領  
 之國係無年モ不談難事也之事連用カ  
 手操生居タル由カ今手合併仁ノ事自音三郎  
 加直事者伴手操家ノ結果ノ伴合タル事不傳テ  
 此事官自大咀結タル事カ教果也一即談直事者  
 先ト之ハ所外深書方ノ事カ據家カ之カ地名也

在朝鮮國仁川港 日本領事館

多かりしヲ以テ國ヲハシラシムルニ至リ即ニ國旗ニタル權眼轉  
 人正病ト居リタリト去ラズ全交後ナル者就キ其高ナルモ全  
 人全クハシラシムル及ビ野子ヲ知ラサル自保ヲ自權眼者ヲ  
 讓者ノ全實國ト救スルモ其時手由者自交正病居  
 リタルト正散ラ自を練交スルニ至リ其詳則ハ外難  
 主別ニ定取者有ル者ニ至リ常ニ外難轉國  
 人國旗ヲ去ラシ居者ニ至リ其在詳カナル者自保  
 二ヨリ休者自全自國之際跡ヲ承ルル今人本年自中  
 一トビシ門外張別將(別將官名)外亦ト共(非)ト  
 其真跡跡ヲ去ラシ居者今人張興植(別將官名)方高  
 食ノ滿言者ト懇意ニシテ談話言者昨午六七  
 日ノ交ニ三ノ韓人ト共(野子)後ト韓人格ト信川ニ至  
 其途ヲ行キ難被トタルヤ三人韓人ノ者ト共  
 在河東國任川港 日本領事館  
 五ノタルモアリ依テ張興植ヲ召喚シ之ヲ訊問タルニ  
 今人知巴ノ爾苗言者(漢語)九者咸鏡道産  
 者ニ至リ年齡六十七八ノ体格強健ト云フ不得月十  
 年以前舟中ト云フ二年前産入タル有リ其乘  
 組船被擄レタルカ為シ之ヲ解産ヤ其後昨午戰軍  
 ノ際逃レ居者を見請ルルヲ目下其所在不明ト云  
 然レ其夫ト云フ人傳ニ應テ信川外ニタルト云フ  
 者ハ分り而シテ眼者余自國ニ至リ據ラ去ルナリ其  
 鐘ト稱ル地ニ居住セルト云フ其言ハ其年四七仁  
 川人姓言者方カモト白本或ハ軍隊ニ後ト信川ト云フ  
 自己家ニ正病ト居リ有信川人ト云フ信川傳リ  
 名モ不リ其年齡四十才前在ニシテ体格強壯者ナリ  
 係者ヲ陳述者即ニ其人相尋テ訊問タルニ其言ハ三郎



陳述功令其屬等以或言三郎和書者、  
苗治日景三三三或言書所取為九八八或言自  
三國治日景三三三或言書所取為九八八或言自  
等種之機案を九毛終之と發見せし得たりし  
也と書之れ本件開之六時日物之經過を記し其手  
頭之詳を述べ其要領を相りしは之を本館に於て交能  
ふと力と為し之を本館に於て交能ふと力と為し之を  
本館に見たりと相違之機案中止し其相得たりと  
猶亦向に之を毛積之に置き台に於て九八八

右及員教美致具

明治三十九年九月五日

在行港領事館事務代理

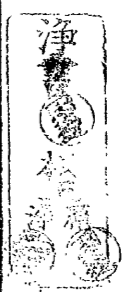
在朝鮮國 仁川港

日本領事

領事 藤林 有 守



外務次官小村壽太郎殿



明治廿九年十月十六日起  
同 年 八 月 八 日 發 遣 出 后

主任

通商局長

外務省通商局長 藤井三郎

山口縣知事 大浦善武殿

貴縣下流先郡麻里府村大字別府子之宮地

平良蛭子音三郎十九番客年十月五日朝

鮮國仁川港より出役し米穀買入ノ為朝鮮

外務省

船に乗出に貴縣迄長洲郡右岸地方に赴キ

其後行方不明ナル趣書ヲ本年首月申合人

知人厚子東洋市より捜索方程出スルノ旨

左任川帝國領事館に於てハ程に捜索し尽

力付レ或ハ殺害セシムルヤノ嫌疑モ有之旨

報告ニ奉答處分同趣旨白紙付付

代付書也此に於て要領ヲ傳ハル旨多ク

外務省通商局長 藤井三郎 謹言



